

AHA 2022 に参加して

片迫 彩（国立循環器病センター 心臓血管内科）

この度は、名誉ある第 13 回 Travel Award for Women Cardiologist (JCS/TAWC) に選出頂き、誠にありがとうございました。今回、2022 年 11 月 5 日から 7 日にアメリカ・シカゴで開催されました、American Heart Association Scientific Session 2022 に現地参加させて頂きましたので、ご報告致します。

AHA 2022 は、3 年ぶりの現地開催となり、私自身初めての海外学会への現地参加ということで大変楽しみにしておりました。現地では、多くの参加者で賑わっており、Late-Breaking Science セッションには、開始前から聴衆で溢れていました。Lancet や New England Journal of Medicine へ同時掲載される研究内容に関して、実際に研究を行った先生の発表を聞いたことは、私にとって大変刺激となり、いつか海外学会で口頭発表ができるように頑張りたいと強く思いました。また、日本と違い、女性の循環器内科医師がとても多いことにも驚きました。

今回、私は「The Association of Public-Access Defibrillation Rate With Mortality and Neurological Outcomes in Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients With Bystander-Witnessed and Initial Shockable Rhythm During Covid-19 Pandemic in Japan」という演題名で、ポスター発表をさせて頂きました。この研究は、総務省消防庁によるウツタイン様式の救急蘇生統計データを用いて、2020 年 4 月 7 日に発出されたコロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が与えた間接的な影響を見た研究です。緊急事態宣言後に、院外心停止患者に対する AED 使用率が急激に低下し、神経学的転帰も悪化したことを明らかにしました。さらに、この変化は緊急事態宣言が最初に発出された都府県において特に顕著でした。他の先進国と比較して新型コロナウイルス感染症による死亡率が極めて低い日本においても、人々の行動および意識に変容を及ぼした緊急事態宣言が、市民による AED 使用率の低下と神経学的転帰が良い患者率の低下を引き起こした可能性が示唆されました。今回の学会では、コロナウイルス感染症関連の研究についての発表が多くあり、海外の先生方と直接研究に関して議論する機会を頂けたことは、自分自身にとって大変刺激となりました。そして、この経験をもとに、最終的に本研究を論文化することができました。¹⁾

最後になりますが、選考して頂いた審査委員の先生方はじめ、研究の指導を頂いた国立循環器病研究センターの野口輝夫先生、田原良雄先生、そして共著者の先生方、本賞の受賞に際

してご指導頂きました片岡有先生に、この場をお借りして御礼申し上げます。

著者の COI：本研究発表内容に関して特に申告なし

1. Aya Katasako, et al. Changes in neurological outcomes of out-of-hospital cardiac arrest during the COVID-19 pandemic in Japan: a population-based nationwide observational study. *The Lancet Regional Health - Western Pacific*. 2023;36:100771.